

外部人材等の活用と特別日課(短縮)を取り入れた実践

各務原市立中央小学校

1. 目標

外部人材等の活用と週1回の特別日課(短縮)による放課後の時間の有効活用により、時間外勤務時間について教職員の月当たりの平均時間を昨年度より約3時間縮める。

2. 加配教員に係る実施状況

加配措置状況		実施教科	実施状況					
非常勤	(週時間)		5年生			6年生		
			実施	学級	時間	実施	学級	時間
1	4	算数	○	1	4			
2	4	書写	○	2	2	○	2	2
3	10	音楽	○	2	4			
		家庭科				○	2	4
		理科				○	1	2

3. 実践の内容

(1) スクール・サポート・スタッフの活用について

各学年の学習で使うプリントの印刷、教材づくり、アンケート等の集計、学年管理の花壇の世話、プリントの採点等の業務支援を行う。

(2) 障がい者就労オフィスの活用について

岐阜県教育委員会から「障がい者就労オフィス」の方(6~7名)を派遣してもらい、職員作業で行っていた学校周辺の雑草の除去や木々の伐採を依頼する。

実施日	作業時間	主な作業内容	実施日	作業時間	主な作業内容
10月8日(木)	10:00~15:00	学年花壇草引き	1月22日(金)	10:00~15:00	校内窓拭き、床磨き
11月5日(木)	10:00~15:00	学校周辺草引き	2月16日(火)	10:00~15:00	学校周辺溝掃除
12月17日(木)	10:00~15:00	学校周辺草引き	3月9日(火)	10:00~15:00	学年花壇草引き

(3) 毎週金曜日の特別日課(短縮日課)の設定について

**B日課(6時間授業・縦割り活動あり)**

日課	時間帯
中央休み	8:15~8:30
朝の会	8:30~8:45
1	8:45~9:25
2	9:30~10:10
なかよし休み	10:10~10:35
3	10:35~11:15
4	11:20~12:00
給食	12:00~12:40
縦割り活動	12:45~13:00
昼休み	13:00~13:15
帰りの会	13:20~13:30
5	13:30~14:10
6	14:15~14:55
下校	15:05

※第一次下校 14:20

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、後期からの縦割り活動を分散して行うため、毎週金曜日の特別日課(短縮日課)を設定し、それと同時に校内の消毒活動及び環境整備を含め、職員の放課後の時間を有効活用できるようにする。

左表のように子どもの最終下校を1時間早くし、この浮いた時間を放課後の時間にあてる。実施回数は、10月1回、11月2回、12月4回、1月3回、2月4回、3月1回である。年間で合計15回を設定することにより、年間で15時間の放課後の時間を生み出すことができる。

## 令和2年度多忙化解消アクションプラン

(小学校における働き方改革推進プロジェクト校用)

### 4. 評価結果

(1) 時間外勤務時間の教職員の月当たりの平均（昨年度との比較）

	高学年担任の平均空き時間数			教職員の月当たりの平均 時間外勤務時間（9月～11月）			
	5年生	6年生	平均	9月	10月	11月	9～11月平均
R1	1.0	3.5	2.3	65時間00分	60時間14分	65時間34分	63時間36分
R2	4.4	5.6	5.0	63時間14分	58時間24分	56時間26分	59時間24分

(2) 時間外勤務時間の5、6年生の月当たりの平均（昨年度との比較）

学年学級	R元年度9月	R2年度9月	R元年度10月	R2年度10月	R元年度11月	R2年度11月
5年1組	92時間19分	58時間59分	81時間52分	72時間59分	92時間25分	66時間00分
5年2組	77時間44分	63時間52分	67時間35分	64時間12分	79時間38分	53時間47分
6年1組	67時間07分	86時間46分	63時間53分	99時間26分	58時間52分	62時間09分
6年2組	76時間22分	85時間18分	77時間08分	99時間36分	72時間00分	56時間34分

5年生は、昨年度より時間外勤務時間の月当たりの平均が17時間58分縮めることができたが、6年生は、昨年度より12時間4分増加してしまった。原因は、新型コロナウイルス感染症対策をした体育参観授業の計画や準備、年度当初の計画を変更した修学旅行の計画や準備に係る時間によるものである。

### 5. 成果と課題

(1) 成果

①小学校教科担任（加配）の活用について

小学校教科担任（加配）が主に5、6年の授業をすることにより、担任はその空き時間を教材研究や授業準備に充てることができた。研究に関するアンケート結果では、「授業が楽しい」と答えた児童が昨年度より10%増加した。

②スクール・サポート・スタッフの活用について

各学年の学習で使うプリントの印刷、教材づくり、アンケート等の集計、学年管理の花壇の世話、プリントの採点等の業務支援により教員一人当たり週に30分程度の削減ができた。

③障がい者就労オフィスの活用について

毎年、職員作業で行っていた学校周辺の雑草の除去や木々の伐採を「障がい者就労オフィス」に依頼したことで、年2回の職員作業（合計3時間程度）の時間の削減ができた。また、担任以外で行ってきた環境整備はほぼ無くなり、心身において負担が軽減され、大いに働き方改革につながった。

④毎週金曜日の特別日課（短縮日課）の設定について

今年度、毎週金曜日の特別日課（短縮日課）により、通常の日程より子どもの最終下校を1時間早くしたが、この時間（1時間）は、教職員にとっては精神的な負担の軽減にもなっており、教職員の表情に明るさややる気を感じられるようになった。

①～④の取組により時間外勤務時間について教職員の月当たりの平均時間を昨年度より約3時間（2時間47分）縮めることができ、目標を達成することができた。

(2) 課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、必然的に無くした行事や内容を縮小、または、時間短縮した行事があった。今後はさらに各行事の意義や目的を踏まえながら見直し、行事そのものを無くしたり、内容を縮小したり、時間を短縮したりしながら多忙化解消に努めていきたい。